

令和4年2月28日

保護者 様

一宮市立木曾川東小学校  
校長 石原 智徳

## 令和3年度 学校アンケートのまとめについて

余寒の候 保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

過日には、ご多用の中、学校アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケートの結果から、学校として特に参考にさせていただいた点について下記のようにご報告させていただきます。

なお、アンケート結果の詳細につきましては、本校のホームページに掲載させていただいております。今後とも、児童が楽しく登校できる学校、保護者や地域の皆様に信頼される学校をめざして、努力してまいりますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

### 記

#### 1 全体的な傾向について

対象児童の半数は進級のため、昨年度とは入れ替っており（昨年度の2年生は中学年に、4年生は高学年に）、教員の異動での入れ替り、さらに昨年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルスにおける学校・各家庭におけるいろいろなことへの影響・状況変化などにより、一概に以前との比較をすることはできませんが、新型コロナウイルスが大きな原因であるなしに関わらず、教員が冷静にみつめ、これからの時代に必要な対応はどんなことかを見つめていく上で、全体的な傾向をまとめ、昨年度の結果と比較することは重要だと考えます。

アンケートは、質問に対し、A「よくあてはまる」 B「ほぼあてはまる」 C「あまりあてはまらない」 D「全くあてはまらない」の4つの中から答えていただく形式で行いました。A・B合わせて「肯定的な回答」として分析します。

まず、児童アンケートでは、低学年では29項目中10、中学年では38項目中38（すべて）、高学年では39項目中19の項目で、肯定的な回答の割合が増えました。また、肯定的な回答の割合が90%を超えた項目は、低学年12、中学年19、高学年14ありました。

保護者アンケートでは、23項目中10項目で肯定的な回答の割合が増え、9項目において肯定的な回答の割合が90%を超えました。

教員アンケートでは、児童の実態に関する項目（16項目）中9項目、自己評価に関する項目（50項目）中38項目で肯定的な回答の割合が増えました。

#### 2 学習に関する項目について

学校として注目した点は下の通りです。児童アンケートでは、「国語の授業がよくわかる」でどの学年部も割合が増え、「算数の授業がよくわかる」では低・中学年が増えています。なお、「宿題をしっかりとやることができる」においては、中学年だけが増えています。

教員の「家庭学習での児童の自主的な学習態度の育成」に対する思いや取り組みが、児童の「宿題をしっかりとやることができる」習慣や保護者の「学校は基礎学力の定着に努力している」の認識に、あまりつながっていないようです。宿題のあり方について、学校全体で改善をしていく必要があります。

「国語の授業がよくわかる」 (%)			
児童	低学年	中学年	高学年
R3	90.1↑	92.3↑	91.5↑
R2	86.0	87.0	86.7

「算数の授業がよくわかる」 (%)			
児童	低学年	中学年	高学年
R3	91.0↑	91.2↑	82.6↓
R2	87.3	84.8	84.0



「宿題をしっかりとやることができる」 (%)			
児童	低学年	中学年	高学年
R3	89.7↓	89.7↑	89.3↓
R2	94.2	84.3	90.4

	「お子さんは授業がよく わかって言っている」(%)		「学校は基礎学力の 定着に努力してい る」(%)		「家庭学習など児童の 自主的な学習態度の育 成に取り組んでいる」 (%)		「学習に対する意欲 や興味・関心を高める 努力をしている」(%)	
	保護者				教員			
R3	80.4↑		89.8↓		94.1↑		100.0↑	
R2	79.6		91.1		90.5		96.7	

他に、教員のアンケートでは、「コンピュータを適切に活用している」89.7%（昨年度 73.3%）でかなりアップ、「ネットモラルについて指導をしている」100.0%（昨年度 86.7%）となっており、2学期から教室で児童一人一人がパソコン1台を使える環境や、ICT支援員の派遣による環境整備・ネットモラル指導等の充実によって、「GIGAスクール構想」に向けたICTの環境整備が着実に進み、その成果が出はじめているようです。

### 3 生活面に関する項目について

#### (1) 思いやりのある子を育てていくために

思いやりのある子を育てていくために、毎年、人権教育に力を入れております。従来は異学年交流を通して、児童の自発性を養いながら、思いやりの心を育ててまいりましたが、それらがコロナ禍で難しくなり、これにかわる手だてを探ってまいりました。

児童・教員のアンケート結果としては、すべてにおいて肯定的な回答の割合が増えています。それとは逆に保護者の思いとしては、肯定的な回答が微妙に減っています。思いやりの心を育て、いじめを防止していくには、家庭や地域との連携が欠かせません。家庭や地域の皆様にご理解、ご協力がいただけるよう努めてまいります。

「いじめはどんな理由があ ってもいけないことだと思 う」(%)			「学校はいじ めや不登校を 防ぐ努力をし ている」(%)		「日常生活の中で、児童 に道徳的心情が育った と思えるような場面が あった」(%)		「『ともに生きる』を意識さ せ一人一人の個性を認め合 い、高め合うような指導を意 図的に実施している」(%)	
児童	中学年	高学年	保護者		教員			
R3	97.9↑	98.2↑	R3	80.8↓	R3	93.1↑	89.7↑	
R2	97.4	96.8	R2	81.4	R2	90.0	86.7	

#### (2) 相談体制について

今年度も、学校生活を安心して過ごせるために、相談しやすい雰囲気作りに努め、事あるごとに学年ごと担任がまとまって対応し、ときには学校全体で取り組むことを何度かやってまいりました。それらの取り組みが保護者の方々にも通じるよう、日頃から児童みんながより相談しやすいと感じる環境をつくっていくようにしてまいります。

「困ったことや悩みがあったら先生に相談している」(%)					保護者「学校は子どもや保護者の悩み 相談に親切にしている」(%)
	低学年	中学年	高学年	教員から見た児童	
R3	78.0↑	69.1↑	59.8↑	96.6↑	85.4↓
R2	76.7	63.6	48.4	93.3	85.7

#### (3) 粘り強く取り組む力について

「何事にも最後まで一生懸命に取り組む」では、低・中学年の回答の割合が増えています。これは子どもたちが将来生きていくうえで、ぜひ身に付けてほしい力ですので、特に高学年において、新型コロナウイルスに負けないよう、学校全体の教育活動を通して、がんばったという喜びと達成感が味わえるような工夫をさらに行い、最後までがんばる強い心を育てていきたいと思っております。

「何事にも最後まで一生懸命に取り組む」(%)				
	低学年	中学年	高学年	教員から見た児童
R3	89.7↑	83.5↑	77.2↓	69.0↑
R2	89.4	75.7	77.7	60.0



